

株式会社JMC

2018年度環境経営レポート

(対象期間:2018年6月～2018年9月)



目次

表紙・・・P1

1.環境経営方針・・・P2

2.組織の概要、認証・登録の対象組織・活動・・・P3

3.環境経営組織図及び役割・責任・権限表・・・P4

4.主な環境負荷の実績、環境経営目標及びその実績・・・P5

5.環境活動計画及び取組結果とその評価・次年度の取組内容・・・P6

6.法的義務を受ける主な環境関連法規制・・・P7

7.代表者による全体の評価と見直し・指示・・・P7

8.環境活動の紹介・・・P8

作成日:2019年1月9日

1.ごあいさつ

株式会社JMCは、試作・小ロット量産の領域に特化して、最先端のものづくりを目指しております。伝統的な職人技とデジタル技術の双方の強みを生かし、製品開発すべてのフェーズに対してお客様のご要望に応えるサービスを提供すべく、各事業間における最大限のシナジーを追究しております。一方、製造業であるがゆえに環境負荷の高い電力やLPGガスの使用、産業廃棄物の排出などを行っていることも事実でございます。全社での環境活動に取り組むことにより、環境面においても社会的責任を果たしてまいります。

環境経営方針

<環境経営理念>

当社は、砂型鋳造による試作品、各種部品・商品の製造、販売ならびに、産業用CTによる検査・測定サービスを通して、顧客に提供する全ての事業活動において環境に影響する項目があることを認識し、EA21環境経営システムに基づいた「環境マネジメントシステム(EMS)」を構築し、EMSの維持と継続的改善を図り、顧客や地域から信頼される企業として社会に貢献してまいります。

<環境保全への行動指針>

- 1.環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
- 2.省エネルギーにより二酸化炭素排出量の削減に努めます。
- 3.廃棄物排出量の削減に努めます。
- 4.適正な利用により水使用量の削減に努めます。
- 5.化学物質の適正管理に努めます。
- 6.当社が製造する製品の環境負荷の削減(不良品の削減)に努めます。
- 7.この環境経営方針を全役職員に周知徹底いたします。

制定日:2018年8月1日

代表取締役社長 渡邊 大知

2.組織の概要

(1) 名称及び代表者名

株式会社JMC
代表取締役社長 渡邊 大知

(2) 所在地

本 社 千222-0033 横浜市港北区新横浜2-5-5住友不動産新横浜ビル1F
コンセプトセンター 千399-2431 長野県飯田市川路7502-1
コンセプトセンター第5期棟 千399-2431 長野県飯田市嶋135
テクニカルセンター 千224-0054 横浜市都筑区佐江戸町366-1

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者：(正) シニアマネージャー 杉山孝和 (本社) TEL:045-477-5757
(副) 榎村祐介 (本社) TEL:045-477-5757
担当者：シニアマネージャー 櫻井弘一 (コンセプトセンター) TEL:0265-27-5501

(4) 事業内容

砂型鋳造による試作品、各種部品・商品の製造、販売
産業用CTによる検査・測定サービス

(5) 事業の規模

製品出荷額:16億円(2017年度)

	本社	コンセプトセンター	コンセプトセンター5期棟	テクニカルセンター	合計
従業員(名)	54	58		8	120
延べ床面積(m ²)	739	1,737	1,226	870	4,572

(6) 事業年度 1月～12月

2.1 認証・登録の対象組織・活動

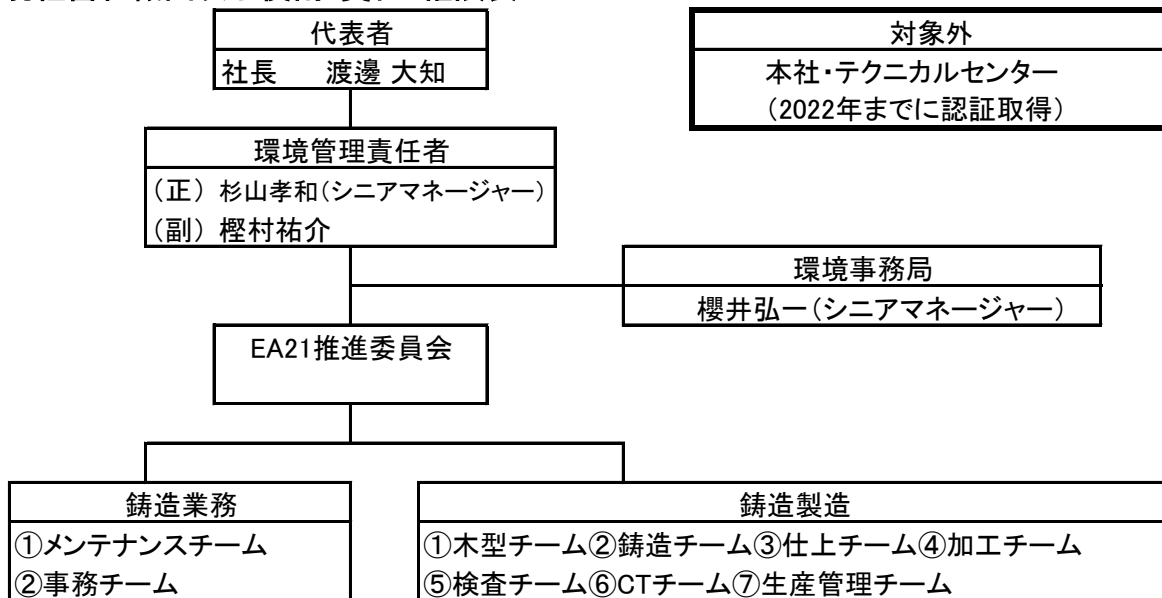
登録事業者名:株式会社JMC

対象事業所:コンセプトセンター・コンセプトセンター5期棟

活動:鋳造品製造・鋳造品販売、産業用CTによる検査・測定サービス

対象外:本社・テクニカルセンター(2022年までに認証取得)

3.環境経営組織図及び役割・責任・権限表



対象外
本社・テクニカルセンター (2022年までに認証取得)

代表者(社長)	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 環境管理責任者を任命 環境経営方針の策定、見直し 環境経営目標、環境経営計画書を承認 代表者による全体の評価と見直し、指示 環境経営レポートの承認
環境管理責任者 (杉山 孝和) (榎村 祐介)	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理 環境関連法規等の取りまとめ表を承認 環境経営目標、環境経営計画書を確認 環境活動の取組結果を代表者へ報告 環境経営レポートの確認
環境事務局 (櫻井 弘一)	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 環境活動の実績集計 環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 環境経営レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
EA21推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営計画の審議 環境活動実績の確認、評価
チーム責任者 (木型:今村 大夢) (鑄造:林 耕平) (仕上:矢澤 大地) (加工:宮手 法彬) (検査:藤波 直希) (CT:吉田 雅彦) (生産管理:北澤 縁樹) (事務:川野 奈美) (メンテ:市瀬 和彦)	<ul style="list-style-type: none"> 自部門における環境経営方針の周知 自部門の従業員に対する教育訓練の実施 自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 時部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 試行、訓練を実施、記録の作成 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全役職員	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 決められたことを守り、自主的、積極的に環境活動へ参加

4.主な環境負荷の実績

項目	単位	2015年	2016年	2017年
二酸化炭素排出量	Kg-CO2	391,413	452,068	545,259
産業廃棄物排出量	t	46.2	44.93	54.71
水使用量	m ³	120	337	496

※電力換算係数は2016年度中部電力調整後排出係数0.480kg/CO2を使用

4.1.環境経営目標及びその実績

評価基準(目標比)◎100%以下 ○101~110% △111~130% ×131%以上

年度 項目		基準値	2018年度			2019年度	2020年度
			2017年度 (基準年)	上段:通年			
		(目標)		(実績)	(評価)		
						下段:6月~9月	
二酸化炭素削減	kg-CO2/百万円	599	593			587	581
	kg-CO2/百万円	691	684	594	◎		
	目標比(%)			87%			
電力の二酸化炭素削減	kg-CO2	392,392	388,468	—		384,544	380,621
	kg-CO2	135,155	133,803	283,436	×		
	目標比(%)			212%		99%	98%
灯油の二酸化炭素削減	kg-CO2	11,407	11,293	—		11,178	11,064
	kg-CO2	0	0	488	×		
	目標比(%)			※1		99%	98%
LPGの二酸化炭素削減	kg-CO2	138,155	136,776	—		135,394	134,013
	kg-CO2	40,790	40,382	22,175	○		
	目標比(%)			55%			
自動車燃料の二酸化炭素削減	kg-CO2	3,305	3,272	—		3,239	3,206
	kg-CO2	987	977	1,351	×		
	目標比(%)			138%		99%	98%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO2	545,259		307,450			
産業廃棄物の削減	kg/百万円	57.1	56.5	—		55.9	55.3
	kg/百万円	54.2	53.7	31.4	○		
	目標比(%)			58%		99%	98%
水道水の削減	m ³ /百万円	0.552	0.547	—		0.541	0.535
	m ³ /百万円	0.708	0.703	0.635	○		
	目標比(%)			90%		99%	98%
化学物質管理	適正管理 (使用量kg)		適正管理	適正管理	○	適正管理	適正管理
グリーン購入	%		100%	—		100%	100%
	%		100%	100%	○		
製品への環境配慮		123	126	—		128	131
	目標比	115	126	129	○	104%	106%

※1 基準年度の実績なし。

5.環境活動計画及び取組結果とその評価・次年度の取組内容

◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	次年度	評価(結果と次年度の取組内容)
電力の二酸化炭素削減			
数値目標	×	×	※工場増設の為目標未達
・不使用機械の電源を切る	○	◎	・次年度も引き続き削減を実施する。
・空調を必要な区域・時間に限定して使用している	○	◎	
・空調機フィルターの定期的な清掃	○	◎	
・回転数制御が可能なインバーターを採用	△	◎	
灯油の二酸化炭素削減			
数値目標	—	—	※対象期間に灯油の使用がありません。
・クールビズ、ウォームビズの実施、導入	◎	◎	・次年度も引き続き削減を実施する
自動車燃料の二酸化炭素削減			
数値目標	×	×	※使用量増加
アイドリングストップ	◎	◎	・次年度も引き続き削減を実施する
産業廃棄物の削減			
数値目標	○	○	※原単位で減少
・作業ミスによる廃棄量の削減	△	◎	・次年度も引き続き削減を実施する
・3S(整理・整頓・清掃)活動を実施	△	◎	
・産廃廃棄物適正処理	△	◎	
水道水の削減			
数値目標	○	○	※原単位で減少
・節水の呼びかけ	◎	◎	・次年度も引き続き削減を実施する
化学物質管理			
数値目標	○	○	※適正管理実施
数値目標なし(使用量管理)	○	◎	・適正管理を継続する
・適正管理			
グリーン購入			
数値目標	○	○	※良好
・コピー用紙の使用(環境認証)	○	◎	・グリーン購入を推進する
製品への環境配慮			
数値目標	◎	◎	※品質指数を使用
・製品品質管理(指数により管理)	◎	◎	・更に品質向上に努める。
社会貢献			
数値目標	—	—	
・地域の環境美化に協力	◎	◎	・継続的に実施する。

6.法的義務を受ける主な環境関連法規制

適用される法規制	適用される事項(施設・物質・事業活動等)	適合状況
産業廃棄物処理法	産業廃棄物(廃油、廃プラ等)産廃収集運搬・処理業者の許可の確認、契約	○
	マニフェスト交付 (B2・D票は90日以内、E票は180日以内の回収)	○
	産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出 (毎年6月末まで)	○
	廃棄物の看板表示 (掲示板:60cm×60cm以上表示)	○
騒音・振動規制法	特定施設の事前届出 (コンプレッサー、業務用エアコン)	○
水質汚濁防止法	油類 事故時の処置	○
消防法(危険物)	指定数量未満保管時の届出 (該当物:灯油 現在は指定数量未満)	○
フロン排出抑制法	簡易点検・定期点検の実施	○
毒物劇物取締法	盗難・施錠・数量管理(帳簿)	○
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)	第1種指定化学物質取扱者は排出・移動量を報告 (年間取扱量1トン以上で従業員21名以上の場合)	○

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、関係当局からの違反等の指摘は過去3年間ありません。

7.代表者による全体の評価と見直し・指示

評価実施日:2019年1月9日

項目	評価・見直し・指示
①取組状況の評価	・環境関連法規の順守は確認。 ・PRTRの取組強化として、PRTR法該当物質含有製品の購入量を把握し、更なる適正管理の実施。
②目標・環境活動計画の達成状況	・二酸化炭素の総量は増加したが、売上高原単位では目標達成。 ・廃棄物排出量の総量は増加したが、売上高原単位では目標達成。 ・水使用量の総量は増加したが、売上高原単位では目標達成。
③周囲の変化の状況	・地元の自治会からの要望により、工場見学を実施したことで、工場に対する理解が深まり、良い印象を与えることができた。
④環境経営方針	変更の必要性 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 ・現在の方針を継続。
⑤目標・活動計画	変更の必要性 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 ・目標・活動を継続。
⑥その他	変更の必要性 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 ・特になし。

8.環境活動の紹介

(1)草刈り活動

実施日：2018年8月16日

飯田時又灯ろう流し&花火大会に合わせ、当社工場周辺の草刈りを実施。



(2)避難訓練

実施日：2018年11月28日

コンセプトセンター 1期棟鑄造エリアから火災が発生したことを想定し、通報・初期消火・避難誘導・救護の避難のフロー、動作確認を実施。

